

令和6年度 実務経験のある教員の担当科目一覧

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
1	ヒューマンコミュニケーション	1	後期	1	薬学A (必修)	渡邊文之	渡邊文之	医療心理や行動科学の考え方を理解し、患者・患者家族の身体的・心理的・社会的背景を総合的に把握して、患者の基本的人権を尊重した全人的な患者中心の医療を提供する能力を身に付ける。相手の言動を文化的、社会科学的な文脈を踏まえて理解し、共感的なコミュニケーションを図り良好な関係性を築き、患者・生活者の最善の意思決定支援と、安全で質の高い医療、保健、介護、福祉の実践につなげる。多様な専門職の職能や自他尊重のコミュニケーションについて理解し、良好な相互理解に基づく他職種連携を通じて、患者・生活者に質の高い医療、保健、介護、福祉を提供する能力を身に付ける。また、保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義・演習を実施する。
							安部恵	
							中島理恵	
2	病気とくすり	1	前期	2	薬学A (必修)	荒川基記	岸川幸生	概要：1人の患者について時間を追いながら、医療人としての倫理観と、患者に起こっている問題点の抽出、薬剤師として何ができるか、何をすべきかを学習者自らが積極的に考える過程で、解決方法について学ぶ。グループ討議を通じてコミュニケーション力を育成し、他者と協働して問題を解決する。また、病院・保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義・演習を実施する。 目標（学習成果）：医療人としての知識・教養に基づいた倫理観を理解し、患者の状態や気持ちを理解し、問題を発見して、薬剤師として解決策を提案できるようになる。
							渡邊文之	
							安部恵	
							荒川基記	
							上島健太郎	
菅野淳史								
3	医療倫理	2	前期	2	総合教育 (必修)	西圭史	西圭史	人間の生と死に深くかかわる医療人として、知っておくべき倫理指針（ガイドライン）や倫理的知識と倫理的問題点などを理解し、自ら考えてゆくことを学習目標とする。提示する臨床事例を通して、学生自身で「医療人となる感性を自己開発する努力」をして欲しい。また、大学病院及び保険薬局等で医師または薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。
							荒川基記	
4	医療と法	2	後期	2	総合教育 (必修)	岸川幸生	加納久雄	わたしたちの社会は、医療専門職としての薬剤師にどのような役割を求めているのでしょうか。法を手掛かりに、社会における医療・薬剤師の位置づけとその役割について理解することがこの講義の目標です。医療人としての倫理観、ヒューマンティの醸成にもつながります。また、大学病院及び保険薬局等で医師または薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。
							岸川幸生	
							安部恵	
							荒川基記	
5	疾患と薬物治療 I	2	後期	2	薬学A (必修)	小菅康弘	加納久雄	概要：将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、心臓血管系疾患、腎尿路系疾患および生殖器系疾患の病態と、それらの治療に用いられる代表的な薬物の薬理作用、作用機序、副作用に関する基本的知識を解説する。また、大学病院等で臨床に携わっている教員が医療現場の医師としての視点からの講義も一部行う。 目標（学習成果）：心臓血管系疾患、腎尿路系疾患および生殖器系疾患の病態・薬物治療に関する基本的な原理を理解するために、それぞれの疾患の病態および治療に用いられる代表的な薬物の作用と作用機序に関する基本的事項を修得することを目的とする。
6	特色教育入門Ⅱ（特色Ⅰ～Ⅲ）	2	前期	1	薬学B (必修)	林宏行	大場延浩	特色教育入門Ⅰに引き続き3つの特色教育の中で、自分が選択した内容を理解することと同時に、選択しない特色教育の特徴を理解する。治療科目に関連して、患者への最善の薬物治療がどのようなものであるかを説明できる。地域系科目に関連して、地域医療に貢献できる薬剤師に必要な知識を習得し、それを実践するための基礎力について説明できる。経営系科目に関連して、医療に関わる経済や経営について具体的に説明できる。これらの3つの系統の特色について討議してまとめる。また、大学病院等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。
							林宏行	
							渡邊文之	
							安部恵	
7	チーム医療入門（特色Ⅰ）	2	後期	1	薬学B (選択)	日高慎二	大場延浩	概要：医療スタッフとの連携・協働という視点で、特色ある能力を有する薬剤師としての役割とその重要性について学ぶ。代表的な医薬品の薬物体内動態の制御法と薬物治療や化学構造と薬理活性との関係について理解し、適正使用を推進するため投薬前に行う処方設計および処方内容の確認・評価の重要性について学ぶ。また、先端医療の臨床応用に関する知識について学ぶ。また、大学病院等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：薬剤師が実践する患者状況の把握、服薬計画・薬学的管理の手法を理解し、急性期医療において患者のQOLの維持・向上、患者の人生観を尊重した療養の実現をサポートできるようになる。
							岸川幸生	
							辻泰弘	
							西圭史	
							林宏行	
日高慎二								
8	特別講義Ⅱ	2	前期	2	薬学C (選択)	大場延浩	大場延浩	概要：さまざまな立場からの健康の維持や増進への貢献を知ることを通じて、自らの将来を考える。薬剤師になると生活習慣病を持つ患者に関わる機会が多いので、生活習慣病を持つ1人の患者の状況をふまえて、薬剤師として必要な病気や薬物治療の知識とは何かを考え、患者の状態や気持ちをふまえて何をすべきかを能動的に考える。これに関連して、医療機関で医師や薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場でのニーズを踏まえた講義を実施する。さらに、企業や行政といった立場からの健康に関するアプローチや、自らが疾患や薬のメカニズムの解明を通じて健康に寄与する研究を行う意義について学ぶ。 目的：薬剤師の多様な役割を理解し、将来の方向性を明確に考えられるようになる。
							加納久雄	
							岸川幸生	
							日高慎二	

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
9	薬学と社会 I	3	前期	2	薬学A (必修)	岸川幸生	岸川幸生	患者・生活者のために多職種や多施設や円滑に連携できる薬剤師として行動できるようになるために、薬剤師業務に関わる制度やしきみ、地域における薬局の役割についての理解を深める。地域薬局で薬剤師として実務経験のある教員(渡邊、安部、泉澤)、大学病院で薬剤師としての実務経験のある教員(岸川)が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。
							渡邊文之	
							安部恵	
							泉澤恵	
							中島理恵	
野伏康仁								
10	臨床薬理学	3	後期	2	薬学A (必修)	辻泰弘	辻泰弘	概要:薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それを応用する基本的技能を身につける。吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学的相互作用に関する基本的事項を修得する。また、病院薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標(学習成果):薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになる。
11	漢方医薬学概論	3	後期	1	薬学A (必修)	岸川幸生	岸川幸生	現代医療で使用されている生薬製剤・漢方薬について理解するために、漢方医学、アーユルヴェーダ医学、ユナニー医学、チベット医学、韓医学などの東洋医学の考え方などの基本的知識を理解する必要がある。特に漢方医学の考え方、代表的な漢方処方への適用についての基本的知識を習得する。また、大学病院で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。
							野伏康仁	
12	症例検討(特色I)	3	後期	1	薬学B (選択)	林宏行	西圭史	おもな症例について薬物および患者側の双方から把握することで、疾病および病態がもたらす生体変化に応じた薬物療法および管理方法が望ましいものなることを理解する。また、大学病院にて薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師の視点から授業を実施する。
							林宏行	
13	地域と薬剤師(特色II)	3	後期	1	薬学B (選択)	渡邊文之	岸川幸生	地域医療における薬剤師の役割に関する知識を修得し、実践するための基礎を作る。また、大学病院及び保険薬局等で医師または薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。
							渡邊文之	
							安部恵	
14	医療情報学(特色III)	3	後期	1	薬学B (選択)	荒川基記	荒川基記	概要:医薬品開発の各プロセスについての基本的知識を学ぶ。また、医薬品開発で実務経験のある教員および外部講師が、現場の視点から講義・演習を実施し、医薬品開発で求められる適切な態度を学ぶ。 目標(学習成果):将来、医薬品開発と生産に参画できるようになるために、医薬品開発の各プロセスについての基本的知識を習得し、併せてそれらを実施する上で求められる適切な態度を身につける。
							上島健太郎	
							菅野淳史	
							中島理恵	
15	プレ実務実習I	4	前期	1	薬学A (必修)	渡邊文之	大場延浩	患者との信頼関係を築き薬物治療を適正に支援できる薬剤師になるために、医療人に求められる患者や看護者への配慮事項および薬剤師の情報収集・提供の技法に関わる知識・技能・態度を培う。医療者の担い手が守るべき倫理規範や法令、健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が関わることの重要性およびインシデントやアクシデントを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。また、病院・保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から実習を実施する。
							岸川幸生	
							西圭史	
							林宏行	
							日高慎二	
							渡邊文之	
							安部恵	
							荒川基記	
							上島健太郎	
							菅野淳史	
中島理恵								
野伏康仁								
花岡峻輔								

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
16	プレ実務実習Ⅱ	4	後期	2	薬学A (必修)	岸川幸生	大場延浩	患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。また、病院・保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から実習を実施する。
							加納久雄	
							岸川幸生	
							西圭史	
							林宏行	
							日高慎二	
							渡邊文之	
							安部恵	
							荒川基記	
							泉澤恵	
							上島健太郎	
							菅野淳史	
							中島理恵	
17	薬学と社会Ⅱ	4	前期	2	薬学A (必修)	日高慎二	日高慎二	概要：薬剤師業務に関わる制度、その根拠となる法律および薬剤経済学に関する基本的な知識と技能について学ぶ。また、大学病院及び保険薬局等で医師または薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：社会において薬剤師として適切な行動ができるようになる。
							荒川基記	
18	EBMと薬物治療	4	前期	2	薬学A (必修)	岸川幸生	加納久雄	診療ガイドラインとEBMの違いを理解した上で、個々の患者により良い薬物治療を提唱できるようになることを目標とする。「3年次までに修得した疾患や薬物療法などを主とする総合的な知識を基に、実地臨床ではどのように薬物治療が患者に提供されるのか」を修得することを目的とする。本授業はTBL (team-based learning) 形式で実施し、1回のTBLは2コマ続けて実施する。初回はオリエンテーションで1コマのみとする。以後は2コマ連続で7回のTBLを実施する。また、病院で医師、薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の医療者の視点から講義を実施する。
							岸川幸生	
							西圭史	
							林宏行	
							日高慎二	
							泉澤恵	
野伏康仁								
19	薬物動態学	4	前期	2	薬学A (必修)	辻泰弘	辻泰弘	概要：薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それを応用する基本的技能を身につける。薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。また、病院薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになる。
20	実務事前学習Ⅰ	4	前期	2	薬学A (必修)	日高慎二	大場延浩	概要：薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得するとともに、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れについて学ぶ。また、大学病院や保険薬局等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍し、医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践できるようになる。
							岸川幸生	
							西圭史	
							林宏行	
							日高慎二	
							渡邊文之	
							荒川基記	
菅野淳史								
21	実務事前学習Ⅱ	4	前期	2	薬学A (必修)	大場延浩	大場延浩	概要：患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。処方せんに基づく調剤：処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。また、医療機関で医師や薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場でのニーズを踏まえた講義を実施する。 目標：薬剤師による医薬品の供給と管理への関わりを理解し、地域保健や医療で実践できるようになる。
							加納久雄	
							西圭史	
							林宏行	
							日高慎二	
							渡邊文之	
							安部恵	
							荒川基記	
							泉澤恵	
菅野淳史								
中島理恵								

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
22	実務事前学習Ⅲ	4	後期	2	薬学A（必修）	岸川幸生	大場延浩	薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践に必要な基本的事項を修得する。患者に安全・最適な薬物治療を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を習得する。また、病院で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。
							岸川幸生	
							西圭史	
							林宏行	
							日高慎二	
							渡邊文之	
							安部恵	
							荒川基記	
菅野淳史								
23	実務事前学習Ⅳ	4	後期	1	薬学A（必修）	大場延浩	大場延浩	概要：これまでの実務事前学習やプレ実務実習で学んだことををふり返るとともに、実務実習で想定されるようなさらなる現場指向の事例や問題の解決について考える。目標：実習生として望まれる対応や解決策を提案できるようになる。また、いずれも大学病院を始めとする病院や薬局にて薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場における薬剤師の視点から授業を実施する。
							加納久雄	
							岸川幸生	
							西圭史	
							日高慎二	
							渡邊文之	
							安部恵	
							荒川基記	
菅野淳史								
24	分野別統合講義Ⅳ	4	後期	1	薬学A（必修）	大場延浩	大場延浩	概要：本講義は『分野別演習講義』と連携して、[E3 薬物治療に役立つ情報]、[B 薬学と社会]、[F 薬学臨床]の分野の基本的知識について学ぶ。具体的には[B, E2, E3, F]のSBOに沿った講義を行い、各自が修得しているはずの知識の確認・補強および再確認を行うという復習形式の授業である。また、大学病院及び保険薬局等で医師または薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：薬物治療、薬学と社会の関係、薬学臨床に関する知識を習得し、薬剤師としてのサポートが実践できる。
							岸川幸生	
							西圭史	
							渡邊文之	
							荒川基記	
							上島健太郎	
							菅野淳史	
							辻泰弘	
林宏行								
25	高齢者医療概論（特色Ⅰ～Ⅲ）	4	前期	1	薬学B（必修）	榛葉繁紀	辻泰弘	概要：我が国の超高齢社会の現状と問題を把握し、高齢者特有の身体的、生理的、心理的特徴を理解することで、薬剤師ならびに社会人として高齢者の支援（医療、介護、保健、福祉）に関わるために必要な知識、態度を習得する。高齢者の包括的支援においては、多くの職種が関わる必要があるため、実務経験のある教員からチーム医療、多職種連携の重要性と薬剤師に求められる専門性について学ぶことで理解を深める。 目標（学習成果）：高齢者医療に関する現状と問題点を理解し、それを専門的な観点から他者に説明できるようになる。
							林宏行	
							渡邊文之	
							安部恵	
26	医薬品評価と安全性監視（特色Ⅰ）	4	後期	1	薬学B（選択）	日高慎二	大場延浩	概要：医療分野の研究開発や製造販売後における医薬品の品質、有効性及び安全性の確保に関する必要な知識について学ぶ。また、大学病院等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：医薬品の品質、有効性及び安全性を科学的知見に基づき適正かつ迅速に予測、評価及び判断することの重要性を理解し、科学技術の成果を人と社会に役立てることができるようになる。
							日高慎二	
27	経営戦略論（特色Ⅲ）	4	後期	1	薬学B（選択）	泉澤恵	泉澤恵	医療者（薬剤師）の視点と経営的な視点から、医療機関、医療関連企業の経営戦略を考えられるようになることを授業の目的とする。病院・薬局で薬剤師として実務経験のある教員、第一線で活躍する医療コンサルタント及び企業経営者である教員が、医療と経営のハイブリッドな視点から講義を実施する。
28	分野別演習講義Ⅳ	4	後期	1	薬学C（選択）	大場延浩	大場延浩	概要：本講義は『分野別統合講義』と連携して、[E3 薬物治療に役立つ情報]、[B 薬学と社会]、[F 薬学臨床]の分野の基本的知識について学ぶ。具体的には[B, E2, E3, F]のSBOに沿った講義を行い、各自が修得しているはずの知識の確認・補強および再確認を行うという復習形式の授業である。また、大学病院及び保険薬局等で医師または薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：薬物治療、薬学と社会の関係、薬学臨床に関する知識を習得し、薬剤師としてのサポートが実践できる。
							西圭史	
							荒川基記	
							上島健太郎	
							菅野淳史	
							中島理恵	
野伏康仁								

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
29	薬学実務実習	5	前期～後期	20	薬学A（必修）	岸川幸生		薬剤師免許を取得する前に実施される薬学実務実習では、病院および薬局において医療現場の臨場感にふれ、医療における薬剤師の役割と責任を理解する。調剤ならびに服薬指導など、薬剤管理を適切に行い、安心して安全、適切な薬物療法に貢献し患者、医療スタッフおよび社会から信頼される医療の担い手になるために、薬剤師として必要な知識、技能、態度を修得する。なお、実務実習ではがん、高血圧、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症といった代表的8疾患については必ず学ぶこと。実務実習では、ワークショップ形式及び講習会形式の認定実務実習指導薬剤師養成研修を全て修了した実務実習指導薬剤師が、社会的要請に応えられる薬剤師を養成するために実習早期より臨床現場で必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを学修するための実習を行う。
30	実務薬学総論	6	前期	2	薬学A（必修）	渡邊文之	大場延浩 岸川幸生 西圭史 林宏行 日高慎二 渡邊文之 安部恵 荒川基記 泉澤恵 上島健太郎 菅野淳史 中島理恵 野伏康仁	5年次の実務実習で学んだ内容を振り返り、薬学の知識を統合して問題解決に資する知識を高める。患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な事項を再度修得する総合的な科目として位置づけ、薬剤師として国民の健康増進に寄与するために行われている取り組みについて理解する。また、病院、薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の医療者の視点から講義を実施する。
31	緩和医療（特色I）	6	前期	1	薬学B（選択）	岸川幸生	岸川幸生 上島健太郎 菅野淳史	現代の医療において緩和ケアを必要とする患者は多い。緩和ケアの目標は、患者のQOLを向上あるいは維持することである。そのため、緩和ケアに従事する者には、患者のQOLを低下させる要因となる痛みやその他の苦痛に対応できる能力が求められる。本講義では緩和ケアについての理解を深め、緩和ケアにおける薬剤師の役割を習得する。また、大学病院で医師または薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。
32	実践感染対策と栄養サポート（特色I）	6	前期	1	薬学B（選択）	林宏行	西圭史 林宏行 上島健太郎 菅野淳史	栄養管理と感染症について、最新の診療ガイドラインに則り、実際に施設内で行われている治療法を理解できるようになることを目標とする。また、病院で医師、薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の医療者の視点から講義を実施する。
33	急性期医療と薬学的管理（特色I）	6	前期	1	薬学B（選択）	日高慎二	大場延浩 日高慎二 荒川基記 菅野淳史	概要：「病気の進行を止める」又は「病気の回復が見込める目処をつける」までの間に提供する医療において、代表的な疾患に関する患者情報の把握と医薬品情報を収集について学ぶ。また、大学病院等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：最善の治療計画を立案して薬学的ケアの実践に繋げることができるようになる。
34	応用薬剤学（特色I）	6	前期	1	薬学B（選択）	鈴木豊史	辻泰弘	授業の概要医療に使用される薬物は、各種剤形に製剤化されたものである。製剤化においては、薬物の化学的、物理的、生物学的特性を明らかにし、広範な薬剤学の知識を集結して、活性を有する成分の有効性と安全性を確保するだけでなく、患者の使いやすさにも考慮する必要がある。さらに、医療現場では薬物適正使用の視点からも、薬物動態モデルを構築して、薬物投与量、投与間隔の立案ができる能力は必要である。このように、製剤特性とその動態特性の両者を正しく理解し、把握することは、薬剤師の特長であるとともに、特色教育Iが目指す「最新かつ広範な薬物療法の提案能力を修得する」ために必須な要素の1つである。【応用薬剤学】では、創薬・創剤技術者として医薬品の研究・開発に従事し、あるいは薬剤師として医薬品の適正使用を実践するうえで基礎となる、製剤の開発動向と薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識について学ぶ。また、大学病院及び保険薬局等で医師または薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：【応用薬剤学】では、5年次までの特色教育Iで学修した薬物治療に特化した知識を基礎に、これらの知識を薬剤学分野に応用できることを目標にしている。＜薬剤学＞の発展科目と位置づけ、鼻腔内投与製剤に焦点を絞り、製剤の特徴や製剤の持つ社会的役割・意義・波及効果について考えながら、世界的な市場、日本未発売の製剤、DDS技術、投与装置（デバイス）などの動向をインターネットを用いて検索・調査し、プレゼンテーションを通じて議論できることを目標とする。＜薬物動態学＞の発展科目と位置づけ、薬物治療の適正化へ寄与するために、薬物動態/薬効解析のモデルを用いて、薬物投与量、投与間隔の立案ができるための知識を習得することを目標とする。

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
35	薬局経営学（特色Ⅲ）	6	前期	1	薬学B（選択）	渡邊文之	渡邊文之 野伏康仁	医療提供施設、健康拠点としての薬局経営・管理のために必要な基本的スキルを理解する。また、保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義・演習を実施する。
36	薬剤経済学（特色Ⅲ）	6	前期	1	薬学B（選択）	安部恵	安部恵	概要：薬剤経済学の分析方法や考え方を通して、医薬品、薬物療法、ひいては薬剤師職能の社会的価値を検討する方法を学ぶ。また、薬局薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場での問題点を視野に入れ講義を実施する。 目標(学習成果)：薬剤経済学の分析方法や考え方を理解し、薬剤師職能の社会的価値を検討できるようになる。
37	医薬品マーケティング（特色Ⅲ）	6	前期	1	薬学B（選択）	渡邊文之	渡邊文之 泉澤恵	企業における医薬品及び医療機器マーケティングの考え方を理解する。企業が永続的に利益を得るためにマーケティングのスキルをどのように活用しているかを理解する。また、保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。

71

以上、実務経験のある教員等による授業科目数の合計は37科目（合計71単位）